

TNVN 第24回定期総会のご報告

2017年4月16日(日)13時00分より、東京ボランティア・市民活動センターB会議室に於いて、第24回総会が開かれました。

開会に先立ち、梶村代表の挨拶と、現正会員団体数90団体に対し、出席会員は20団体、委任状提出会員が32団体で、過半数の45を超えており、規約第7条3項の規定により総会は成立した旨の報告が司会より行われ、総会の開会が宣言されました。

議事に入る前に議長選出が行われ、議長として、「NPO法人IWC国際市民の会」の仁村議子様が推薦され、出席者の賛同を得て議長に選任されました。

議長の挨拶と、議長より、議事記録を「やさしい日本語」の岡田美奈子様をお願いしたい旨の提案があり承認されました。

議事に入る前の手続きを終え、第1号議案「2016年度活動報告」と第2号議案「2016年度決算報告」の審議が行われました。第1号議案は梶村代表から、第2号議案は、会計の「社会福祉法人 さぼうと21」の矢崎理恵様から報告がありました。矢崎様の報告に対し、会計監査の「本所賀川記念館日本語教室」の嶋田信子様(所用で欠席の為、梶村代表が代読)より、2016年度決算は適正な会計処理がなされていた旨の監査報告がありました。第1号議案、第2号議案報告の後、質疑応答と議決が行われ承認されました。

次に次期役員を選出に移り、総会迄に立候補・推薦はなかった旨の報告と同時に、改めて出席者に役員立候補・推薦を図りましたが、立候補・推薦共になく、出席者の賛同を得て、今年度の役員が任命されました。(役職・氏名は8ページをご覧ください)

役員選出に続いて、第3号議案「2017年度活動計画」と第4号議案「2017年度予算」の審議が行われました。第3号議案は梶村代表から、第4号議案は会計の矢崎理恵様から報告が行われ、質疑応答の後議決が行われ承認されました。

第4号議案の承認をもって議事は全て終了し、休憩の後、公益財団法人国際研修協力機構(JITCO)の黒羽千佳子氏より、「外国人技能実習生と日本語」と云うテーマで講演が行われました。

黒羽千佳子氏から講演の内容について執筆をお願いしました。次頁を併せてお読み下さい。

講演会には40名もの出席があり、講演の後、4グループに分かれて、講演についての感想・疑問・意見などを話し合いました。

以下に主な意見と感想をご紹介します。

❖技能実習生を受け入れている教室から

- 雇用主の指示で教室に来た学習者は日本語習得に熱意がない事が多いと感じる。こうした学習者への対応をどうしたらよいか聞きたかった。
- キャリア形成に役立つからと、N2、N3

合格を目指す学習者がいる反面、出稼ぎに来ているだけと割り切っている学習者もいる。

- 他の学習者やボランティアと交流があると学習が長続きするようだ。
- どの企業に派遣されるかにより、運不運があるようだ。
- 監理団体(協同組合・加工組合など)に問題があるようだ。
- 「コンビニ弁当詰め」が技能と言えるのかという素朴な疑問。

❖講演内容に関して

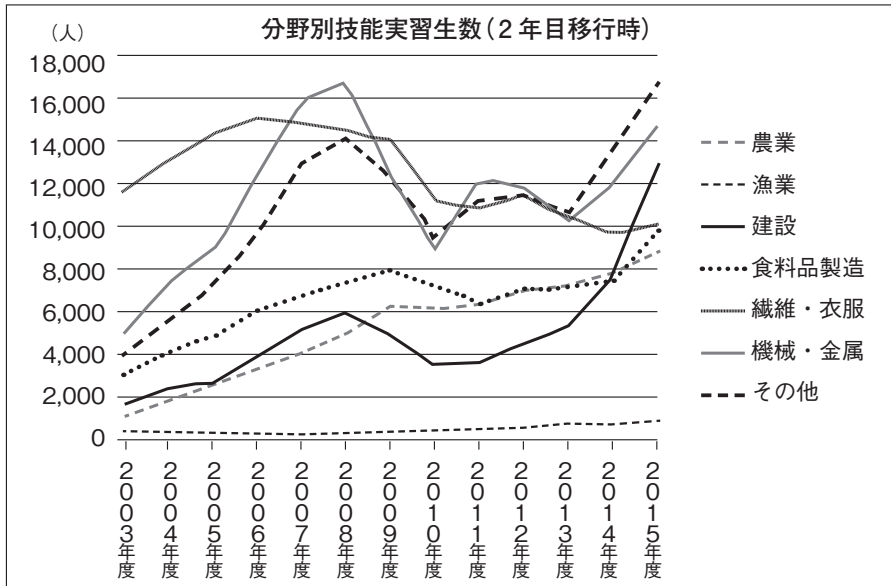
- 内容に対して講演時間が少な過ぎる。
- 知らなかった事が多々あったので勉強になった。興味深かった。例:実習期間が3年から5年に延長される。
- 日本語指導の具体的なやり方をもっと聞きたかった。
- 本講演で紹介された教材「JITCO日本語教材『みどり』」を使いたい。

どのグループも活発な意見交換がなされ、この問題に対する関心の高さがうかがえました。(文責:神、岡田)



外国人技能実習生と日本語

公益財団法人国際研修協力機構(JITCO) 黒羽 千佳子



能だと考えるのは、ほとんどが入国前に日本語を学習してくるという実状をふまえています。学習経験ありと言っても、入国直後はほとんど運用力がないのが現実ですから、入国後の「講習」では、既習事項が使えるようになることを目標にして練習につきあう、という姿勢であれば、授業が可能だという考えです。日本語指導関連のセミナー等も、この観点到重点をおいて実施しています。

地域日本語教室と技能実習生

地域の日本語教室に技能実習生が来るのは、「講習」後、仕事が始まってからでしょう。日本語の学習義務はないのに通ってくるのですから、個別のニーズがあるはず。各教室でできる範囲で、ニーズに沿った対応をしていただければと思います。また、受け入れ先の職員等と接する機会があれば、技能実習生の日本語力向上を望むだけでなく、日本人側が、技能実習生の既習レベルの日本語で対応することや、「見える化」の工夫によって、意思の疎通が改善する可能性があるということ、是非、伝えていただきたいと思ひます。外国人の日本語学習と無縁の人は、外国人の日本語習得に対して過大に期待しますので、「間に立つ人」として、現実を把握してもらうことに一役買っていただきたいと思ひます。

【追記】技能実習生から仕事上の悩み等の相談があった場合は、下記のJITCOの無料サービスをご紹介します。曜日や時間帯が限られますが、母語で相談することができます。

データで見る技能実習生

文化庁の調査では国内の日本語学習者は約19万人、うち技能実習生は8千人弱ですが、国内の技能実習生は約21万人、留学ビザで滞在する人の数に匹敵します。また、現在日本に住む外国人約230万人のうち、1割近くを技能実習生が占めることを意味します。出身国別では、以前は全体の4分の3以上が中国でしたが、中国の減少とベトナムの急増により、現在は逆転してベトナムが最多です。

技能実習生の仕事は何でも良いわけではなく、決まった仕事(2016年4月時点で74職種133作業)に従事することになっています。以前は繊維・衣服関係が多く、最近は建設関係が急増、といった変化はありますが、農業、漁業、食品製造等、日本のものづくりの幅広い場面に技能実習生がいます。

技能実習生と日本語

技能実習生は、入国前の準備期間(3ヶ月前後)に始まり、入国直後の座学「講習」(約1ヶ月、約170時間)、技能実習2年目移行時の評価試験等を経て、3年

間日本に滞在して帰国する、というのが代表的な流れです。(2017年11月に、条件を満たせば5年間滞在可能になる等、法律が改正されます。)

このうち「講習」では、「日本語」が必須項目の1つですが、それに充てる時間数、教材、指導員の資格等の詳細は定めがなく、講習を行う「監理団体」の裁量に委ねられています。監理団体によっては「講習」の日本語を日本語学校等に依頼するところもありますが、多くは「非専門」、つまり、日本語の教え方の学習経験のない指導員が担当しています。こうした「非専門」の指導員には、例えば「みんなの日本語」を使おうとしても、使い方がわからないのが現実です。JITCOでは、そのような「非専門」の指導員でもなんとか授業ができるような教材を作り、インターネットサイト「JITCO日本語教材ひろば」で無料ダウンロード可能にして支援しています。

「非専門」でもやりよう次第で授業が可

JITCO母国語相談ホットライン

フリーダイヤル :0120-022332 11時~19時

ベトナム語…火木土/中国語…火木土/インドネシア語…火土/英語…木/フィリピン語…木



在住外国人のための暮らし情報サイト 「Life in Tokyo」を オープンしました

東京都国際交流委員会

寄稿

◎東京都国際交流委員会について

東京都国際交流委員会(以下「委員会」という。)は、2003年に設立された任意団体で、(1)在住外国人に向けたホームページでの情報提供、(2)区市の国際交流協会等との連絡調整、(3)都民の国際化への意識啓発を目的とした「国際化市民フォーラム in Tokyo」の開催などを行っています。

2016年2月に出された東京都の「多文化共生推進指針」において、委員会は都の多文化共生・国際交流事業推進の中核的な役割を果たすと位置づけられました。

◎「ポータルサイト」について

2016年度に入り、指針で示された内容を実効性あるものとして委員会に託された事業が、多文化共生に関する情報の一元化を目的とした「ポータルサイト」の構築でした。

求める情報が一目でわかるサイトをどう構築するかというのは、なかなかイメージしづらいものです。そこで、国際交流協会やNPO・NGO団体等の方々から、また企業で活躍している外国人から、必要とする情報はどのようなものかなど、現場からの声を聞くことから取り掛かりました。その結果、在住外国人の方々が私たち日本人と同じ目線で“住む”ことが出来るよう、住んでいる地域との結びつきを重視するサイトを作ることになりました。

地域を重視すると言った点で、団体紹介では区市町村にご協力頂き、57の自治体の多文化共生に関する取組みを紹介することができました。また区市の国際交流協会や、「国際化市民フォーラム in Tokyo」の登壇者、ニュースレター「れすばす」の取材先など、委員会のネットワークを生かし、都内全20の国際交流協会、および様々な分野で活動する25の支援団体を紹介しています。

その他、東京を楽しむと言った観点では、都内の地域の魅力を発信する読み物コーナー(トピックス)や、団体の広報の場として活用できるイベントコーナーを設けています。支援団体とイベントは、常時、情報を募集しております。詳しくは同サイトの「情報掲載希望の方へ」をご覧ください。

サイトのビジュアルは、ピクトグラムや写真を多く利用することで、日本語が十分ではない外国人に対しても視覚的理解や興味が得られるよう工夫しました。しかし、構成が分かりづらい点や、操作性に欠ける点など、既に改善点も上がっています。利用者の方々の意見を取り込んだ活気あるサイトにしていきたいと思っておりますので、お気づきの点があれば、ご意見をお寄せいただければと思います。

在住外国人のための暮らし情報サイトLife in Tokyo ▶
<https://www.lifein.tokyo.jp/>

◎さいごに

現在、東京には約48万人の外国人が居住しています。その中には言葉の壁を超えるため、日本語教室を拠り所としている方が大勢いらっしゃると思います。

委員会としても日本語教室の需要の高さは認識しているところで、東京日本語ボランティア・ネットワークのボランティア日本語教室ガイドについて、「ポータルサイト」にバナーを貼らせて頂きました。今後、日本語教室検索機能の追加についても検討していきたいと考えておりますので、その際は皆さまのご意見をうかがえれば幸いです。



学生さんが教えてくれたこと。 今この時期に…

日本語教師 金子 広幸

今日は日本語教師としての私ではなく、主に日本語を使っている私としてお話ししたいと思います。

私の昔の学生さんの中に、Tさんと言う人がいます。みんながTさんのことが大好きで、彼女のいるところでは笑いが絶えず、いつも楽しいクラスになりました。彼女はとても人思いの女性で、クラスが終わると、毎回必ず私の荷物運びを手伝ってくれました。

Tさんが最初に来てくれたのは、忘れもしない、桜吹雪が美しいその頃でした。恥ずかしそうに、でもはっきりと

「先生、手伝います」

と言ってくれました。「手伝います」という単語は、まだ「あいうえお」が終わったばかりの彼女には未習だったはずですが。私はそれが嬉しいと感じたのでした。

数週間すると、それは「手伝いたいです」になりました。

またしばらくすると「手伝ってもいいですか?」になり、

やがて「手伝ってもよろしいでしょうか」「手伝いましょうか」

と変化し、途中

「手伝ってあげましょうか」と言った時には、こちらもハツとなり、「それは言いませんよ」と言ったのを覚えています。蒸し暑い夏の頃でした。

そして窓の景色が紅葉になる頃、クラスメートと嬉しそうに敬語を学ぶと、Tさんはいかにもその丁寧な気持ちを込めたいと思っていたことを顔の表情に表しながら、

「お手伝いします」

「お手伝いいたします」

「お持ちしましょうか」

「お持ちいたしましょうか」

と次々とと言えるようになっていきました。

そして…、

木枯らしが吹き始めたある日、ごく自然に「お荷物、お持ちいたします」と言うTさんが私の前に立つのですが、…ここまで来るのに、一体どのくらいかかったことか！ 一生懸命頑張ったTさんでも、ゆうに数ヶ月がかかったのです。異国で双子の小さい赤ちゃん2人を抱えて、クラスに通うのはどんなにか大変だったことでしょう。

私もそんなTさんの時々の様子を見ながら、「このままでいいのかな～」

と思うことが何度もありましたが、混乱させてはならないという思いから、コメントは最小限にしていました。…この辺は「悲しい教師の目」ですね。

…でも、Tさんがこの日本社会でお国の言葉を教える教師となられた今、これはどうだったのだろうかと思っています。

教師としては「這えば立て、立てば歩めの親ごころ」で、毎回の進歩がうれしく思います。でも、よく考えると、最初から

「この状況では『お荷物、お持ちいたします』を言えばいいですよ」と伝えればよかったはずですが。

教師や支援者は、時々立ち止まり「この表現は、この状況で本当に使ってもいい?」と自問自答したほうがよさそうですね。

私の世代の英語の教科書は、This is a pen.から始まっていました。そもそもThis is a pen.というこの文、一体どこで目にしたり口にしたりすると言うのでしょうか。

プレゼントにペンを選び、美しくラッピングして手渡す時にも、This is a pen.は言わないでしょう。

さらに、見て明らかにペンなのに、それを手に持って、目の前にいる人に、This is a pen.と言っていたら、素敵な皮肉が愚弄でしょう。

また、駅の前で、ペンを手に持って、This is a pen.と呟いている人を見たら、ちょっと遠回りして避けてしまおうかもしれませんよね。

このTNVNのスタッフの、尊敬するHさんは、中学生でいらしたころ、寝言でおっしゃったとのこと！熱心な生徒さんだったんですね。

最近はこの種の教科書は無くなったと聞いていますが、私もまた、初めての英語のクラスで、楽しくThis is a pen.と言っていたのでした。

学問として学ぶのだから、不定冠詞“a”の存在、Be動詞“is”の位置などを知ることは重要ですが、もう少し役に立つ例文を考えられなかったものかと今の私は思います。

日本語の教科書にある買い物のシチュエーションには「いくらですか」という表現が出てくるのですが、これも、一見必要なようでいて、現代の日本では使用頻度は高くありません。

まず、デパートやスーパーなどで、値札が取れてしまったりしていない限り、これを使う機会はありません。

超高価なお寿司屋さんで、意地悪に「鯛 時価」などと書いてあっても、それをいちいち「いくらですか」と確認してから注文する人もあまりいないように思います。

こないだ東京の蚤の市に行ったら「いくらですか」と値段交渉をしている人がいました。こここそは現代日本では数少ない「使ってもいい場所」ですが、私だったらそれをいう代わりに、すかさず「これ300円で売ってくれないですか」と言うかもしれません。

私は、一種の病気なのか数字にひどく弱いので、レジで値段を言われても、すぐに把握できないことがあるのですが、そんな時でも「いくらですか」

と問い直したら角が立つので、レジ機に示された緑色の見にくい数字を目を凝らして読んだり、わざと高額紙幣を渡して、お釣りをもらったりしています。

…ね？「いくらですか」はあまり使っていないでしょう？

学問として英語を学んできた私達は、

…This is a pen.から始まって…

…文法を積み上げたり…

…だんだん難しくなる単語をかたばしから覚えたり…

…それを苦心して組み合わせ使ったりすることに慣れていきます。

慣れている…とは言えなくても(少なくとも英語の成績が悪かった私には言えません)「語学はこのように学ぶものだ」と思い込まされています。だから、Tさんのこのような変化を、「進歩」と呼んで「うれしく」眺めてしまうのかもしれません。

でも、本来は「今この人を困む状況が当然理解できる大人の社会人」に、先ほどの場面で「手伝いたいです」などと言わせてはいけません。「いつもお世話になっている先生を手伝ってさしあげたい」と、話者としての学習者が思っているこの状況も、その人の心情も、明らかなこの場で「お荷物、お持ちいたします」が習えないのは、確かにおかしいことです。

30年前、台北の私のクラスの学生Mさんにも同じことを言われたことがあります。

彼女は日本からのお客さんを接待する重要な任務を帯びている人で、私のクラスで「あいうえお」から2年かけて上級まで学習した人でした。

「私の職場に来る日本の人の

多くは初対面の人で、その人たちに対して使う言葉は敬語を含めた丁寧な言葉。それならどうして「初対面の人に使う丁寧な日本語から習える教科書・コース」がないのでしょうか。不思議です。」

というのが彼女の意見でした。あれから30年、時々このことを思い出します。

はじめから「カリキュラムありき」として教えている私たち日本語教師・ボランティアのみなさん。もう少し頭を柔らかくしてもいいかもしれませんね。

教師としては、「いや！ あいうえおから勉強するのはね…」と理由を述べ、学習の層を厚くして基礎を作ったほうが、実りある結果が得られるものだよ！と強調したいこともあります。

でも、2020年に世紀の祭典オリンピックを控えた日本の、まさにこの時期に、アニメやゲームで日本語を学んで来た若い世代が目撃されて日本に来る、まさにこの時期に、多くの観光客が、日本を楽しみに来ている、まさにこの時期にこそ、Tさん、Mさんが教えてくれたこのことを、もう一度考えてもいいなと思います。



■ 学習者の方々が気軽に相談できる場を

西大井日本語教室 (品川区)

新島栄子／橋本直美／渡利さゆり

西大井日本語教室は平成10年、今から19年ほど前に設立されました。現在は、横須賀線の西大井駅から徒歩5分ほどの原ウェルカムセンターという公民館で、月曜日と木曜日の週2回日本語のクラスを開いています。

教室では、タイ、カナダ、中国などいろいろな国からの学習者が日本語を勉強しています。学習者のレベルもまちまちで、挨拶の仕方や平仮名からスタートする初級者もいれば、新聞の社説を読む中上級者もいます。来日の理由もさまざま、仕事のためにという生徒さんもあ

れば、配偶者に連れられていらした方もいます。

レッスンの形態はプライベートおよびセミプライベートです。一人の講師が、一人から二人の生徒さんのレベルや事情に合わせてレッスンを行っているため、指導内容もグループごとにそれぞれ異なります。日本語検定試験へ向けての指導もあれば、生徒さんのバイト先のファーストフード店ならではの表現(「ご一緒に〇〇はいかがですか?」等)についてどういう場面で使うのか説明することもあります。社説の読解から発展して日本の政情についての質問を受けることもあ

れば、生徒さんのお子さんの学校選びの際の注意点や、「ママ友」との付き合い方について相談を受けることもあります。

日本語教室という名目で活動をしてはいますが「日本語の指導をする」という枠にとらわれずに、学習者の方々が日本で生活で疑問を持ったり困ったりした時に、気軽に相談できる場を提供できればと考えています。



会員団体紹介

Nice to Meet You

日本語MUSUBIは2016年1月から本格稼働を始めたばかりの若い日本語クラスで、渋谷文化総合センター大和田で毎週金曜日の夜に活動しています。MUSUBI(結び)とは、人と人をつなぐこと。このクラスに集まってくる方々がここで友達を見つけ、日本の生活をより豊かに楽しんでほしい、そして私たち日本人と外国人もまたここで温かな友情を結んでほしいという願いを込めて名付けました。その名の通り、最初は緊張していた学習者の方々も、数回通ってくるうちに次第に打ち解けてきてお互いに冗談を言い合ったり、時には仕事が休みの日に遊ぶ約束をしたりと、和気藹々とした楽しいクラスです。授業はグループレッスン形式で行っており、現在はレベル別3グループに落ち着いていますが、いらして

■ MUSUBI(結び)とは、人と人をつなぐことです。

日本語MUSUBI (渋谷区)

代表／松田圭子



くださる方々の需要を見ながら、今後も流動的に展開していく予定です。

渋谷という場所柄が、学習者は20～40代前半くらいまでの仕事を持った若い方が多く、国籍も特に偏りなく実にさまざまです。仕事は英語という方が多いの

ですが、それでも日本語を勉強したいというのはやはり少しでも日本の社会に溶け込みたい、日本が好きという気持ちがあることなのでしょう。その気持ちを大事に、今までイベントとして「俳句講座」や「メールの書き方講座」などを行ってまいりました。1週間

の仕事からようやく解放される金曜の夜にもかかわらず、毎回たくさんの学習者が集まって来てくださるのは嬉しいことです。そして私たちボランティアもまた、皆さんにお会いできるのがいつも待ち遠しくてたまりません。

学習者の声

『日本学生
支援機構』
様へ

都立高校3年生A・E
フィリピン（大田区）

『私はフィリピンからきました。日本にきて7年間住んでいます。今は日本の学校で勉強しています。高校3年生になって、大学受験をしています。私は日本の大学に入学したいです。勉強をしたいと思っています。私

の夢はホテルの仕事ですが、私は大学のお金を払うことができません。から、奨学金をほしいんですが、私のVISAが「家族滞在」です。もしチャンスがあれば奨学金を取りたいです。お願いいたします』



という名の「教育ローン」を二人に一人が借りています。「家族滞在」の生徒たちも奨学金を借りたいと思い、低金利の「日本学生支援機構

（旧日本育英会）の奨学金を申請しようと思います。しかし「日本学生支援機構」は「家族滞在」を申請の資格から除外しています。

こうした「家族滞在」の子どもたちは、いずれ、安定した在留資格のもとで生活していくことが望ましいのですが、在留資格の変更には日本滞在が10年近く必要です。私が勤めている高校にも「家族滞在」の生徒がいます。その生徒たちと卒業後の進路のことを話す時間が一番辛いことになります。あなたの在留資格の内容を知っていますか？と聞いても生徒たちはポカンとしています。この先、日本で働きたくても、アルバイトしかできないんだよね、ということ伝えることはこれまでの教員生活でも初めてのことでした。教員の仕事は、すべての生徒が就職や進学ができるよう進路支援をすることです。ところが日本の社会が外国人を労働力として受け入れていく一方で、こうした就職ができない、奨学金がもらえない生徒・学生を生み出しているのが日本の現実です。国籍や在留資格にかかわらず、全ての子どもたちの進路を保障するために、現在の入管行政の見直しと法の改正が必要です。

最初にフィリピン・ルーツのA.Eさんの作文を紹介しました。進学を希望していたA.Eさんは「家族滞在」であるがゆえに、日本学生支援機構の奨学金を申請できず、この4月から金利の高い教育ローンを借りて短期大学に進学しました。日本学生支援機構の規程の見直しを現場の一教員として求めたいと思います。

いま日本の学校に外国籍で「家族滞在」の在留資格の生徒が通っています。「家族滞在」とは、中国料理店やカレー店などで働く「技能」ビザで来日している外国人の家族に与えられる在留資格です。「家族滞在」の総数は149,303人（2016年末：法務省）で、毎年増えており、この数には多くの子どもたちが含まれています。こうした子どもたちは、日本の小・中・高校に通い、将来の日本での仕事や生活に夢を抱いています。

この子どもたちが高校を卒業し就職する場合、学校とハローワークを通して就職活動をします。しかし、この子どもたちが日本で働き、生活していくための法や制度の整備が不十分です。例えば「家族滞在」の生徒たちは中学や高校を卒業しても、週28時間以内のアルバイトしかできず、正規の就業が許可されていません。

高校を卒業する際に、一人だけ就職できない友だちがいたとしたら、どんな気持ちになりますか。クラスメイトは「どうしてBちゃんだけ就職できないの？」と疑問を持つことでしょう。何より本人がどんな気持ちになるか想像がつくと思います。

このような事態が各地の高校で生じています。「家族滞在」の生徒は、ひっそり自分の「在留資格」の就労制限のことを知らされ、就職を諦めてアルバイトをせざるを得ないのです。

生徒たちの中には大学進学を希望する生徒もいます。高騰する大学・短大・専門学校

ボランティア
の声

角田 仁 / 都立高校教員 OCNet (大田区)

就職できない高校生たちのことを知っていますか？
—日本で暮らす『家族滞在』の子ども・若者たち—

◎2017年度の役員・スタッフ・運営委員が決まりました。

本年度も会員の皆さまと情報・意見交換会等を通して交流を深めて参ります。
宜しくご支援・ご協力をお願いします。

■TNVN 2017年度役員・スタッフ

- 代表 梶村 勝利 (早稲田奉仕園日本語ボランティアの会/新宿区)
副代表 神 歩 (江戸川にほんご交流会B/江戸川区)
事務局長 林川 玲子 (ビバ日本語教室/港区)
会 計 矢崎 理恵 (社会福祉法人さぼくと21/品川区)
会計(日常) 林川 玲子 (ビバ日本語教室/港区)
会計監査 山内 眞理 (多摩市国際交流センター-日本語セミナー部/多摩市)
スタッフ 大木 千冬 (町田日本語の会/町田市)
◇ 岡田 美奈子 (やさしい日本語/江東区)
◇ 小川 伶子 (初歩日本語/練馬区)
◇ 床呂 英一 (まちだ地域国際交流協会/町田市)
◇ 鶴田 環恵 (在宅 ニュースレター・レイアウト)
◇ 松川 彩子 (在宅 やさしい日本語/江東区)
HP 外国人からの問合せ(英文)
◇ 大滝 敦史 (在宅 HP管理)



■TNVN 2017運営委員

次の6名の方に運営委員をお願いしました。

- 坂本 弘一 (かけはし/足立区)
渡辺 紀子 (まちだ地域国際交流協会/町田市)
田中 卓 (八王子国際友好クラブ/八王子市)
小野 美恵子 (グッドナイト日本語教室/江東区)
仁村 議子 (NPO法人IWC国際市民の会/品川区)
中山 眞理子
(NPO法人多文化こども自立支援センター/中野区)

◆新会員紹介

- 日本語ボランティアグループ「なでしこ」(足立区)
- 文京日本語交流員の会「教室名 シビック日本語」(文京区)



TNVN第24回総会に参加された団体

地球家族(板橋区)/にほんごクラブ・ゆう(江戸川区)/江戸川日本語クラブやまびこ(江戸川区)江戸川にほんご交流会B(江戸川区)/グッドナイト日本語(江東区)/やさしい日本語(江東区)/社会福祉法人 さぼくと21(品川区)/NPO法人IWC国際市民の会(品川区)/スペース・アイ(渋谷区)/早稲田奉仕園日本語ボランティアの会(新宿区)/日本語交流クラブ(杉並区)/光が丘ことばの会(練馬区)/初歩日本語(練馬区)/ビバ日本語教室(港区)/にほんごの会くれよん(目黒区)/日本語サークル「わかば」(世田谷区)/八王子国際友好クラブ 日本語グループ(八王子区)/日本語ボランティア翼の会(羽村市)/日野国際友好クラブ(日野市)/府中国際交流サロン(府中市)/町田日本語の会(町田市)/まちだ地域国際交流協会(町田市)



TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVN の会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVN は会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

- ◆日時：毎週金曜日午後2時～4時
第5金曜日/休み
- ◆場所
東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線)出口B2b) 飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー
- ◆日本語ボランティア相談窓口
日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフが応えています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えています。ご意見もお待ちしています。
〒162-0823
東京都新宿区神楽河岸 1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4
- ◆TEL：03-3235-1171
(呼出：金曜日活動時間帯のみ)
- ◆FAX：03-3235-0050
- ◆E-mail：webadmin@tnvn.jp
- ◆URL：http://www.tnvn.jp/
- ◆郵便局払込
口座番号：00100-1-719259
加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

- ◆会員数 (2017年5月12日現在)
正会員：90団体
個人協力会員：14名
賛助会員：3団体

- ◆編集/大木 千冬、岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利、神 歩、床呂 英一、林川 玲子、山内 眞理
- ◆レイアウト/鶴田 環恵

Column 取り置き

先日、私の担当グループのタイ人学習者から、こんな質問をうけました。「取り置きって、どうすることですか。」彼女は、ケーキ屋さんでアルバイトをしていて、お客様から「これ「取り置き」お願いします」と言われ、わからず困ったそうです。「取り置き」という言葉から、私たちは、あとで買うので、確保しておくことと分かるのですが、聞きなれないとわかりにくいようです。私も改めて調べてみました。「取り置き」は、とくに最近ネット販売の各商品、通販、

書籍の予約など多くの業種で使われています。その言葉の内容は少しずつ違います。何気なく使っている言葉が生活の変化を反映して新しい用法をどんどん加えていきます。私は、学習者から質問されるとすぐに言葉の説明をしてしまいましたが、現場で生きているのが言葉です。相手の立場や環境を理解して、生きた日本語の使い方や対応を伝えていけるよう、いつも心がけていきたいと思えます。